

6. 都市機能

(1) 商業施設の状況

- ・ 商業施設は、市全体に分散して立地していますが、大野地区・東野地区・山本地区の一部地域・池尻地区の一部地域は徒歩圏内に商業施設がない状況となっています。
- ・ 市街化調整区域に小規模スーパーが3箇所立地しています。

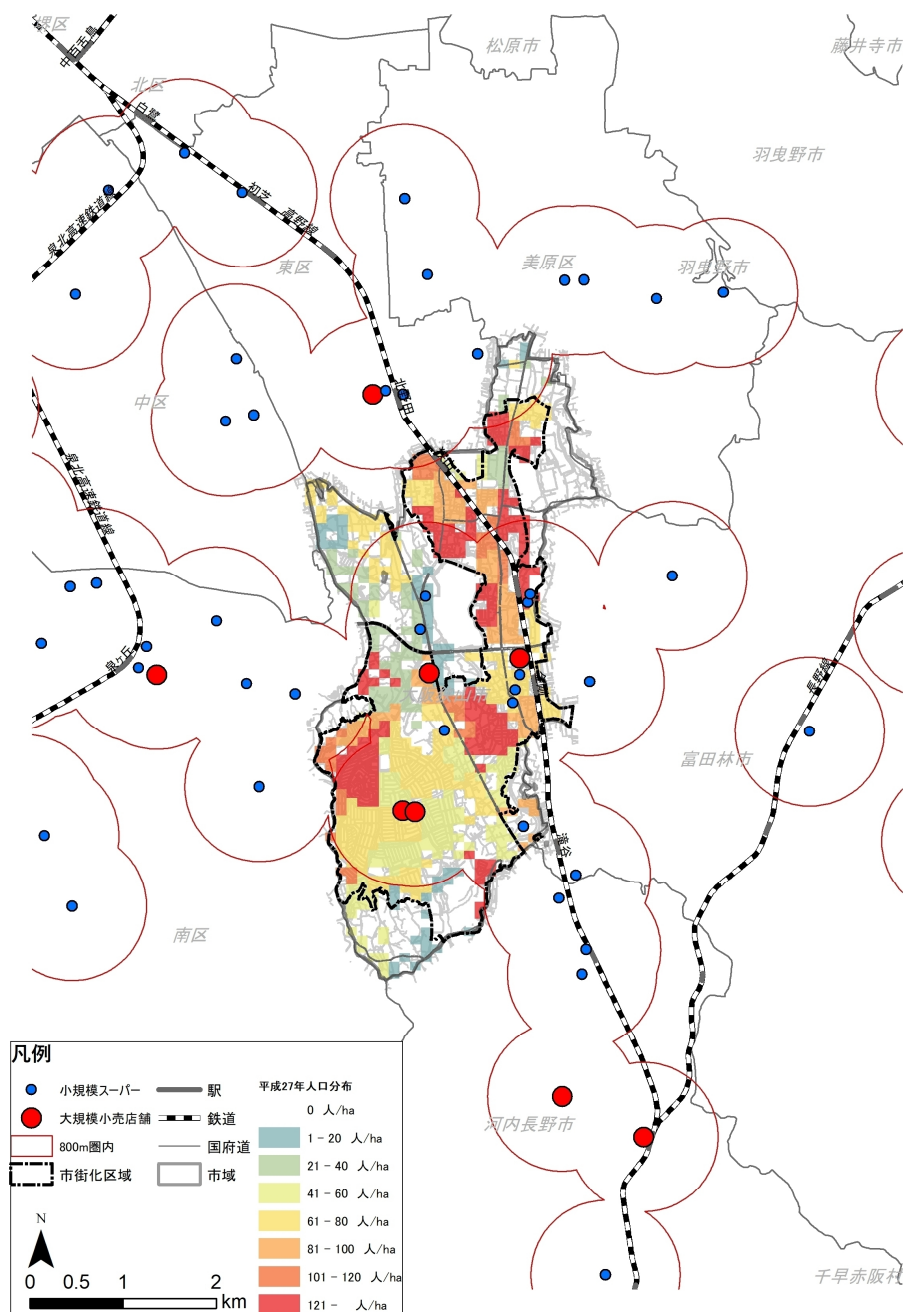


図 6-1 商業施設の立地状況

【出典】（大規模小売店舗）平成 30 年（2018 年）全国大型小売店舗総覧 （小規模スーパー）iタウンページ等

【注釈】大規模小売店舗とは大規模小売店舗立地法に基づき届け出が出されている店舗（売場面積が 1,000 m²超）、小規模スーパーとは売り場面積が 1,000 m²以下の店舗をさします。

(2) 医療施設の状況

- ・ 医療施設は市内に分散して立地しており、概ね市全体が 800 メートル徒歩圏内に病院または診療所が存在します。

※当図は、データの出典時点となるため現時点の情報とは異なります。

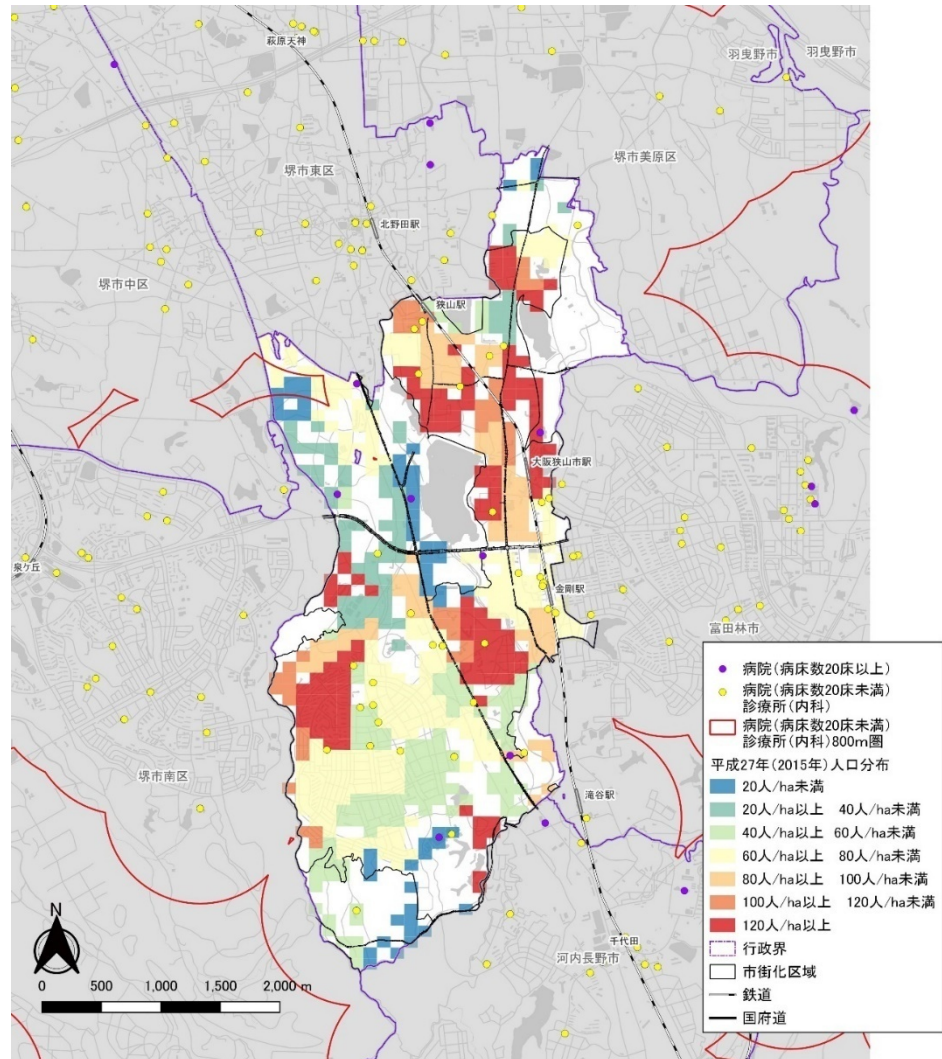


図 6-2 医療施設（病院、診療所）の立地状況

【出典】国土数値情報「医療機関データ」令和 2 年度（2020 年度）版更新

【注釈】病院とは 20 人以上の入院施設を備える施設、診療所とは入院施設を有しない施設あるいは 19 人以下の入院施設を備える施設を指す。いずれも内科のある施設をプロットしています。また、作成時点に休止中の施設および企業内の施設等を含むデータです。

(3) 高齢者・障がい者福祉施設の状況

- ・福祉施設は、市全体に分散して立地しており、概ね市全体が 800 メートル徒歩圏内に施設が存在しています。

※当図は、データの出典時点となるため現時点の情報とは異なります。

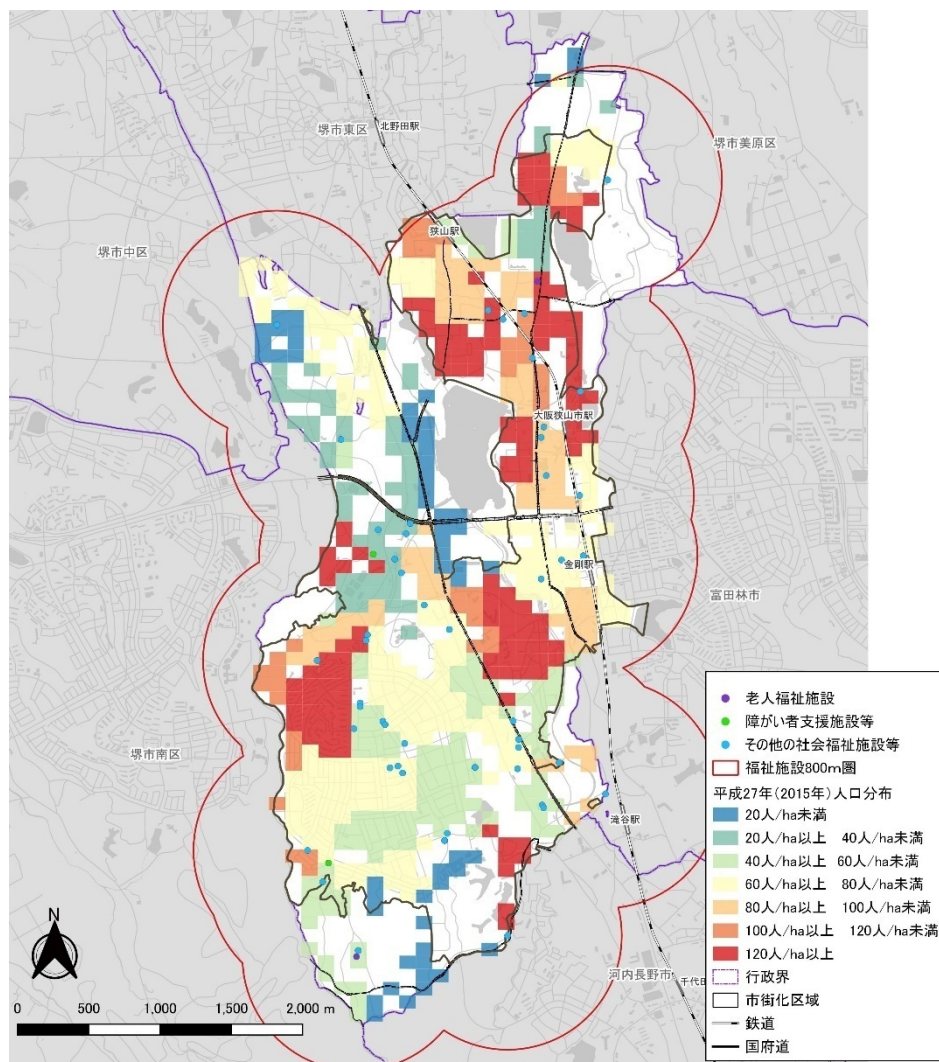


図 6-3 高齢者・障がい者福祉施設の分布状況

【出典】国土数値情報「福祉施設データ」令和3年度(2021年度)版更新

【注釈】国土数値情報における「施設の用途による大分類」に基づき分類し、「老人福祉施設」は、軽費老人ホーム、老人短期入所施設をプロットしています。「障がい者支援施設」は、地域活動支援センターをプロットしています。「その他の社会福祉施設等」は、有料老人ホーム、介護保険等の施設、障害者サービス施設、児童福祉サービス施設、相談所等の施設をプロットしています。

(4) 保育施設の状況

- ・ 保育施設のうち保育所が3施設、幼稚園が3施設、幼保連携型認定こども園が7施設あり、人口が多い範囲に施設が分布しています。

※当図は、データの出典時点となるため現時点の情報とは異なります。

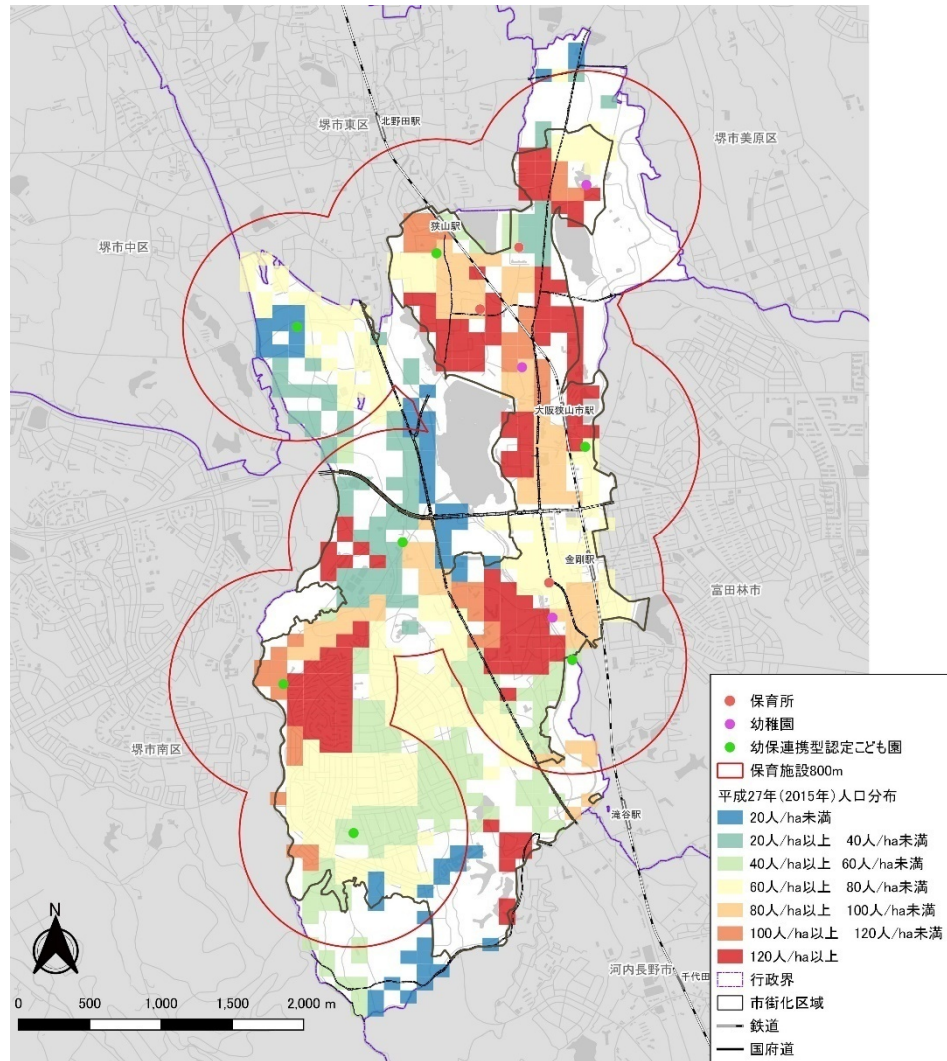


図 6-4 保育施設の立地状況

【出典】保育園：国土数値情報「福祉施設データ」令和3年度（2021年度）版更新、幼稚園、幼保連携型認定こども園：国土数値情報「学校データ」令和3年度（2021年度）版更新

(5) 学校施設の状況

- ・ 小学校・中学校・高校については、小学校が7箇所、中学校が3箇所、高校が1箇所分布しています。

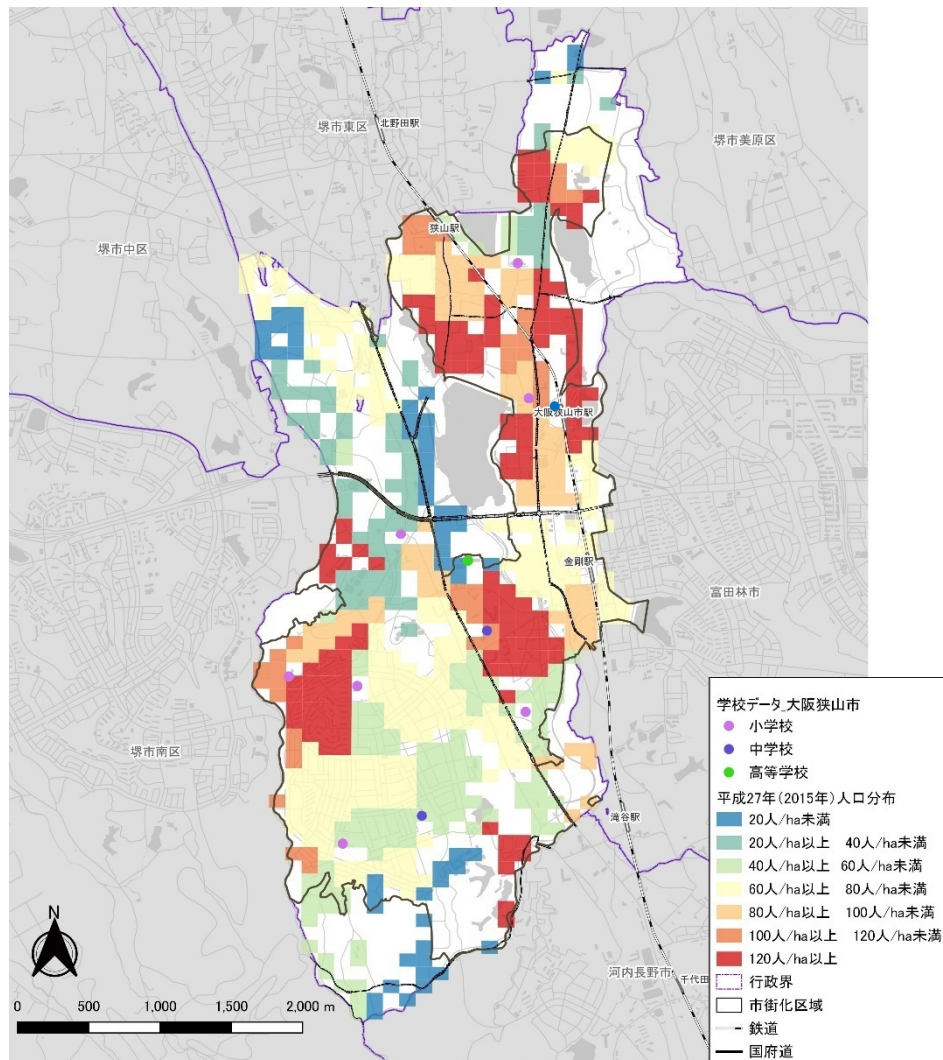


図 6-5 小学校・中学校・高校の立地状況

【出典】国土数値情報「学校データ」令和3年度(2021年度)版更新

【注釈】学校分類のうち「小学校」「中学校」「高等学校」をプロットしています。

- ・「大阪狭山市立学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針」における小学校児童数の見通しによると、今後、東小、西小、北小、第七小は令和 7 年（2025 年）まで増加が見込まれ、令和 7 年（2025 年）以降は減少する見通しです。
- ・「大阪狭山市立学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針」における中学校生徒数の見通しによると、狭山中、第三中は令和 12 年（2030 年）まで増加傾向ですが、その後減少する見通しです。しかし狭山中については、令和 2 年（2020 年）の 598 人に対して、令和 22 年（2040 年）の見通しが 596 人と概ね横ばいといえます。

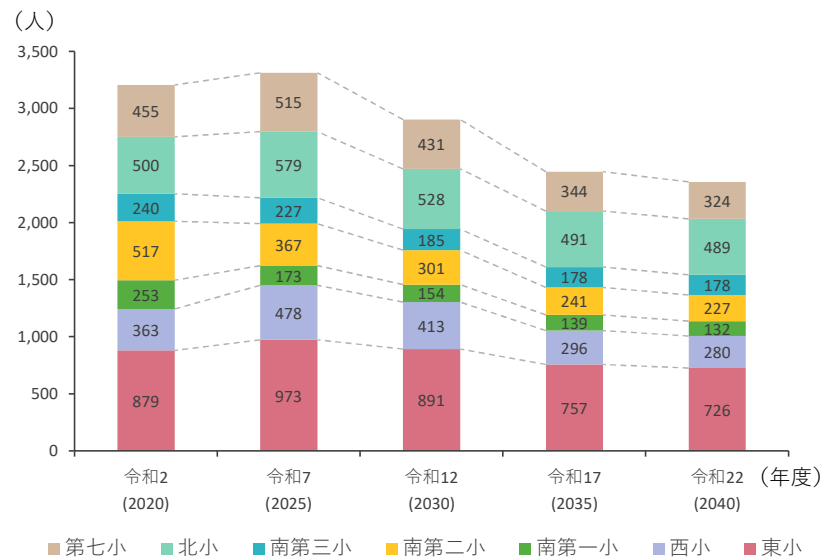


図 6-6 今後の小学校児童数の見通し

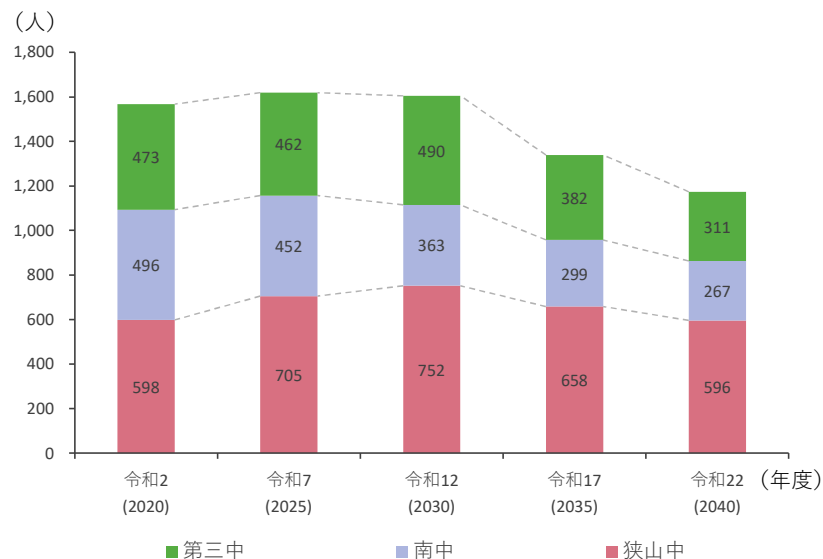


図 6-7 今後の中学校生徒数の見通し

【出典】大阪狭山市立学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針（令和 5 年（2023 年）2 月）

【注釈】令和 2 年（2020 年）は実数値、令和 7 年（2025 年）以降はコーホート要因法で推計した数値に市独自の補正を行ったものです。

(6) 公共施設の状況

- ・ 行政施設が 2 箇所、市民活動施設が 6 箇所、文化施設が 5 箇所、娯楽・スポーツ施設が 12 箇所立地しています。

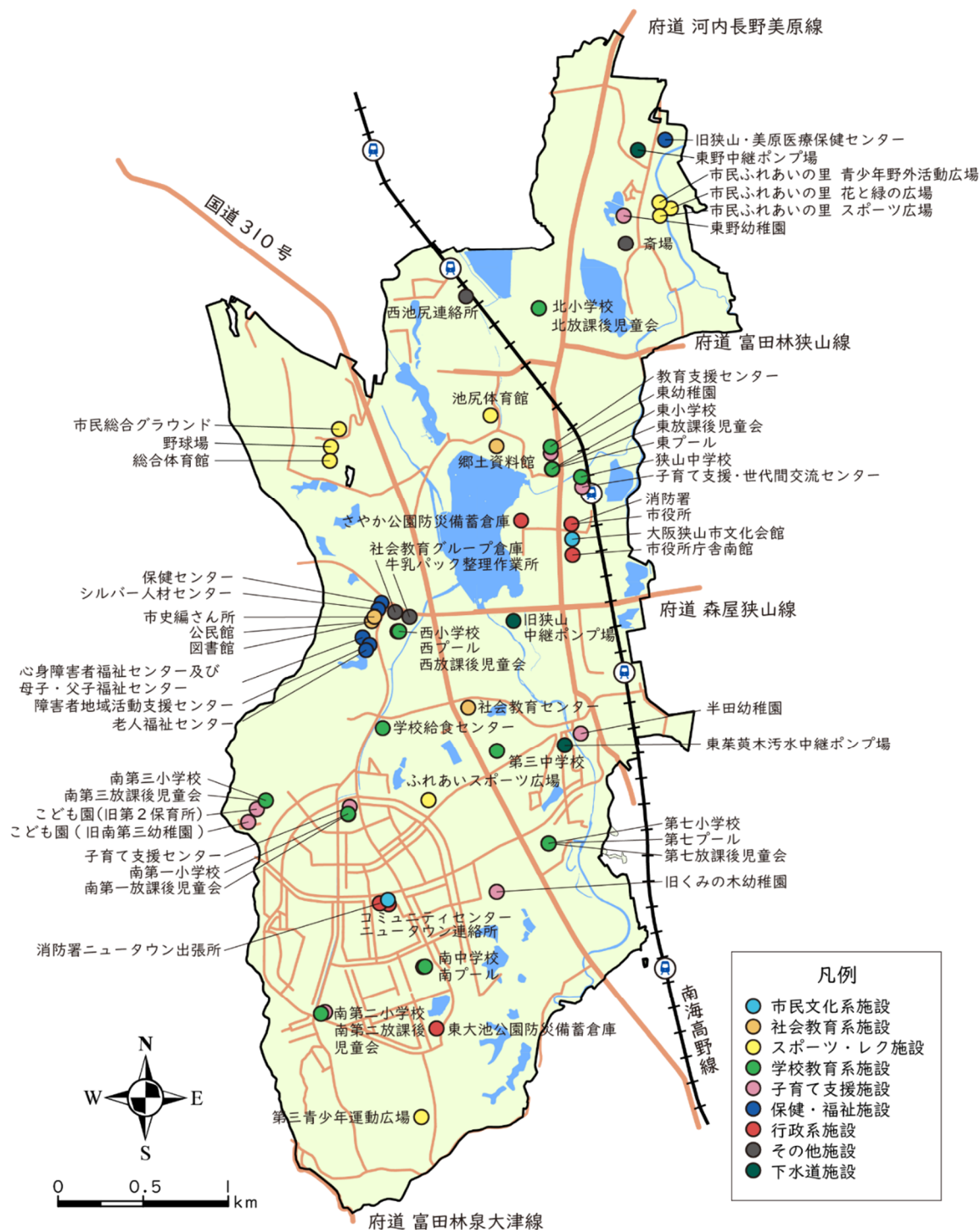


図 6-8 公共施設の分布状況

【出典】大阪狭山市公共施設再配置方針（令和 5 年（2023 年）3 月）より抜粋

7. 交通

(1) 鉄道

- ・市内には、南海高野線狭山駅、大阪狭山市駅、金剛駅の3駅があり、金剛駅は特急停車駅であることから乗降人員が3駅の中では最も多く、コロナ以前の令和元年度（2019年度）には32,892人が1日に乗降しています。
- ・生活圏内にある南海高野線北野田駅、泉北高速鉄道泉ヶ丘駅は、金剛駅よりも乗降人員は多く、南海高野線滝谷駅は、狭山駅よりも乗降人員が少なくなっています。
- ・平成24年度（2012年度）から令和元年度（2019年度）の7年間で乗降人員が増加している駅は、狭山駅、大阪狭山市駅で約5%程度増加しています。一方、最も乗降人員が減少している駅は、金剛駅で約8%程度減少しています。
- ・令和2年度（2020年度）からは、コロナ禍のため鉄道利用者が減少し、コロナ以前と比較して約20%前後減少しています。

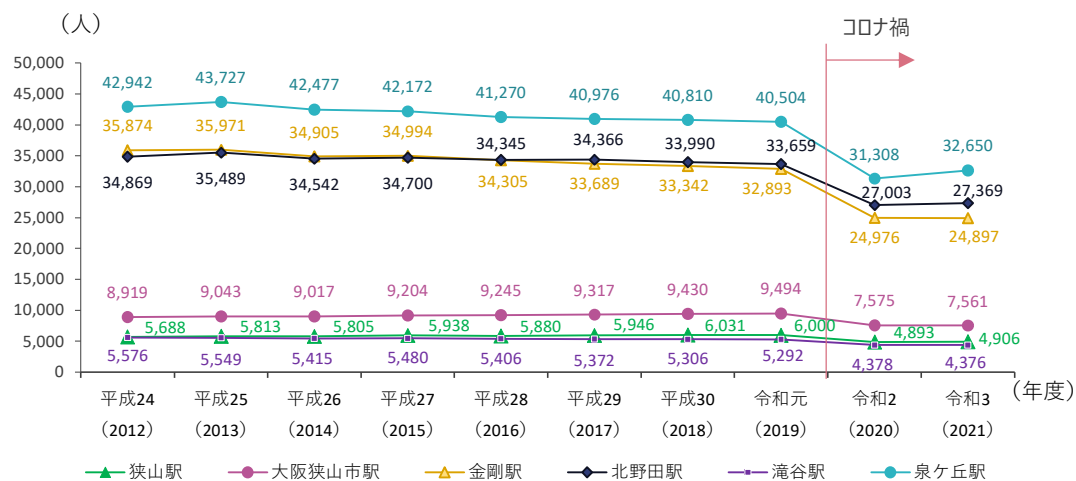


図 7-1 駅別 1 日平均乗降人員

【出典】大阪府統計年鑑

- ・各駅利用者の駅までの交通手段として、バスで駅に向かう人は金剛駅が最も多く22.2%です。一方、狭山駅、大阪狭山市駅へは徒歩で向かう人が多くなっています。
- ・金剛駅利用者の22.2%がバスを利用していることより、金剛駅利用圏域は、市内外に広範囲であると考えられます。

表 7-1 平日駅乗車における駅までの交通手段
単位：トリップ/日

	狭山	大阪狭山市	金剛
バス	0 (0.0%)	141 (4.6%)	3,408 (22.2%)
自動車	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2,477 (16.1%)
自動二輪・原付	139 (5.3%)	0 (0.0%)	973 (6.3%)
自転車	473 (18.1%)	246 (8.0%)	1,900 (12.4%)
徒歩	2,002 (76.6%)	2,694 (87.4%)	6,609 (43.0%)
合計	2,614 (100.0%)	3,081 (100.0%)	15,367 (100.0%)

【出典】第6回（令和3年（2021年））近畿圏パーソントリップ調査 京阪神都市圏交通計画協議会

- ・ 鉄道 3 駅における市内人口(カバー率)は、鉄道駅 500m 範囲は 25,737 人(44.0%)、1 km 範囲は 39,080 人(66.9%) です。※総人口：58,435 人でカバー率を算出
- ・ 鉄道駅 500m 範囲の人口が最も多い鉄道駅は、大阪狭山市駅で市内人口 11,836 人となり、次いで狭山駅で市内人口 8,224 人となっています。

【鉄道駅 500m 範囲内の夜間人口】



【鉄道駅 1 km 範囲内の夜間人口】

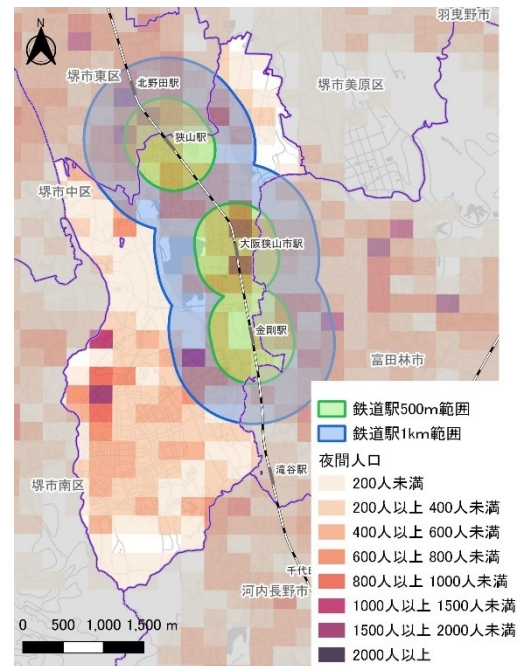


図 7-2 鉄道駅 500m・1 kmにおける夜間人口

【鉄道駅 500m 範囲内の 15 歳以上就業通学者数】



【鉄道駅 1 km 範囲内の 15 歳以上就業通学者数】

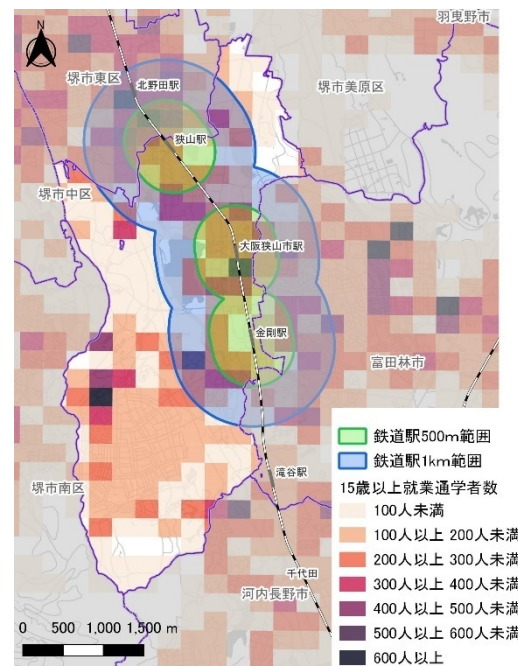
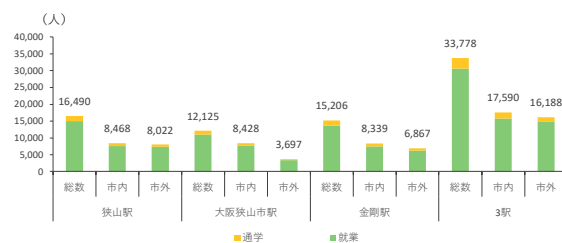


図 7-3 鉄道駅 500m・1 kmにおける 15 歳以上就業通学者数

【出典】令和 2 年（2020 年）国勢調査 250mメッシュ人口・人口移動データ

【注記】人口の集計は、鉄道駅半円に重なるすべてのメッシュ内の人口を総計しています。

- ・ 鉄道駅 500m範囲の土地利用用途は自然的土地利用が全体の 19.36%、都市的土地利用は 80.64%となっています。また、鉄道駅 1km 範囲の土地利用用途は自然的土地利用が全体の 34.28%、都市的土地利用は 65.72%となっています。

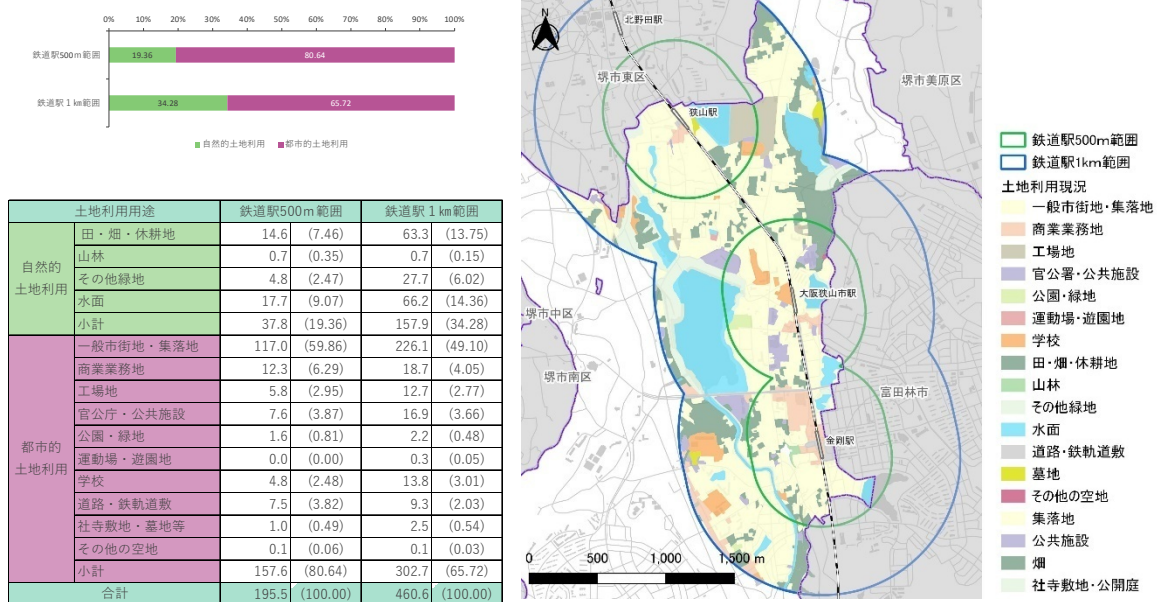
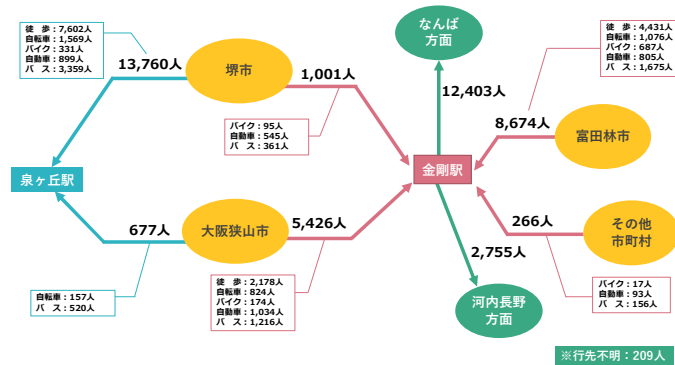


図 7-4 鉄道駅 500m・1 kmにおける土地利用現況

(2) 鉄道利用者に関する調査

- ・ 平日に、本市を出発地として金剛駅を乗車のため利用する人は 5,426 人と最も多く、次いで狭山駅が 1,732 人、大阪狭山市駅が 1,999 人となっています。
- ・ 平日の金剛駅までの移動手段は、徒歩が最も多く 2,178 人（40.1%）、次いでバスが 1,216 人（22.4%）となっています。
- ・ 平日に泉ヶ丘駅を乗車のため利用する人のうち約 5%が本市から向かう人であり、この利用者のうち約 77%がバスを利用しています（泉ヶ丘駅平日乗車人員 14,437 人のうち大阪狭山市を出発地とする人は 677 人、このうちバス利用者は 520 人）。

【平日：金剛駅乗車・大阪狭山市から泉ヶ丘駅乗車】



【休日：金剛駅乗車・大阪狭山市から泉ヶ丘駅乗車】

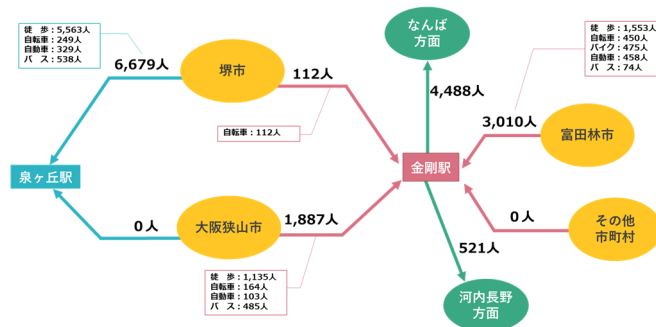
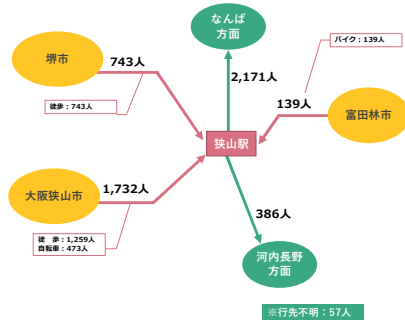


図 7-5 平日・休日金剛駅、泉ヶ丘駅乗車における移動

【平日：狭山駅乗車】



【平日：大阪狭山市駅乗車】

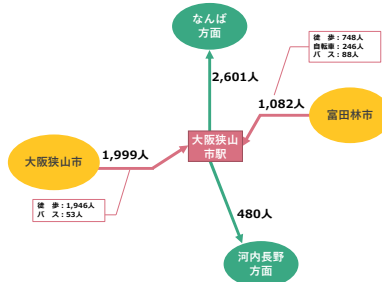


図 7-6 平日狭山駅、大阪狭山市駅乗車における移動

【出典】第 6 回（令和 3 年（2021 年））近畿圏パーソントリップ調査 京阪神都市圏交通計画協議会

【注記】図に表示している単位を「人」としていますが、正確には「トリップ/日」であり、当図の集計は、出発地点から駅に向かう人の駅までの交通手段を示しています。パーソントリップ調査は、全数調査ではなく、近畿圏居住者から無作為に対象者を抽出したサンプル踏査です。そのため当図に示す数値については、実際の観測地ではなく個人の属性等をもとに補正、拡大した推計値であり、調査対象者の中にこれらの動きをした人がいなかった場合は 0 人として表記されます。

(3) 市循環バス

- ・市循環バスは、令和5年（2023年）2月1日にルート変更されましたが、これ以前は、南回り、ニュータウン回り、西・北回りの3ルートで運行していました。
- ・令和5年（2023年）2月1日のルート改正により、西・北回りが、西回りと北回りに単独ルートとなり、西回りは北野田駅への乗り入れが、北回りは黒山警察署へもアクセス可能な堺市美原区への乗り入れが実現したルートになりました。
- ・ルート別の年間利用者数をみると、ニュータウン回りの利用者数が多く、近年ではコロナ禍を経て、外出される際のバス利用者も増加傾向にあります。

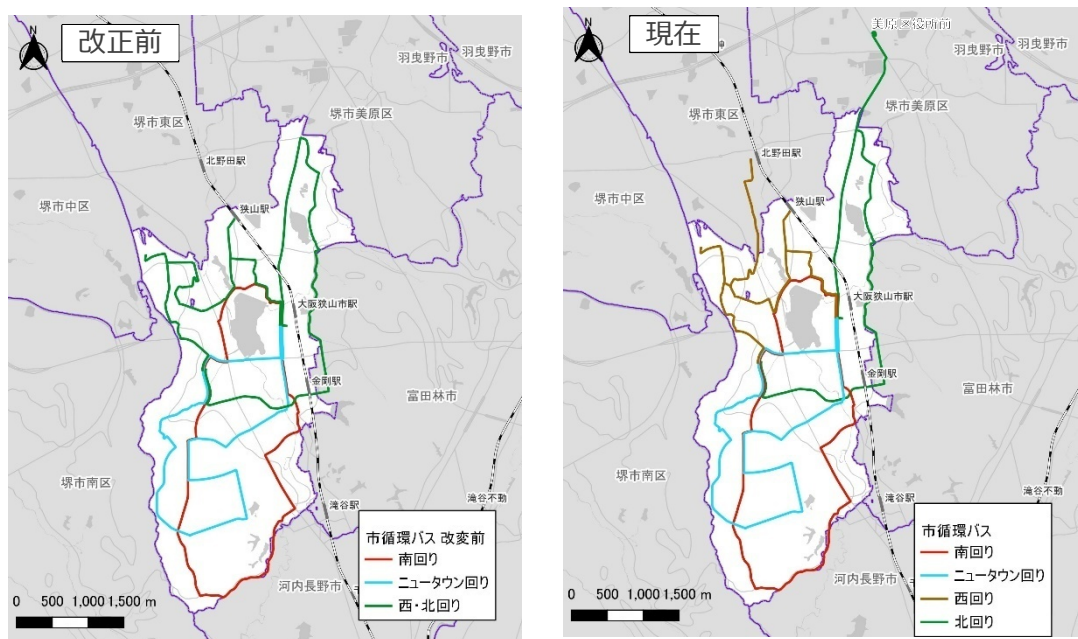


図 7-7 市循環バスルート図（令和5年（2023年）2月ルート改変前後）

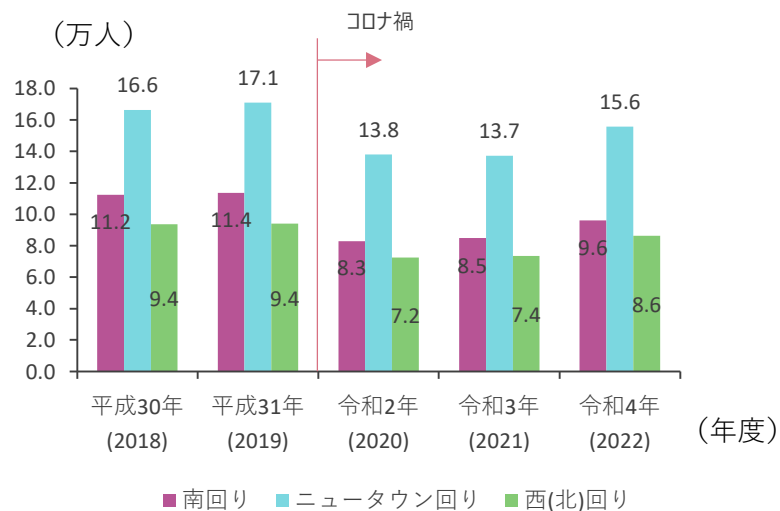
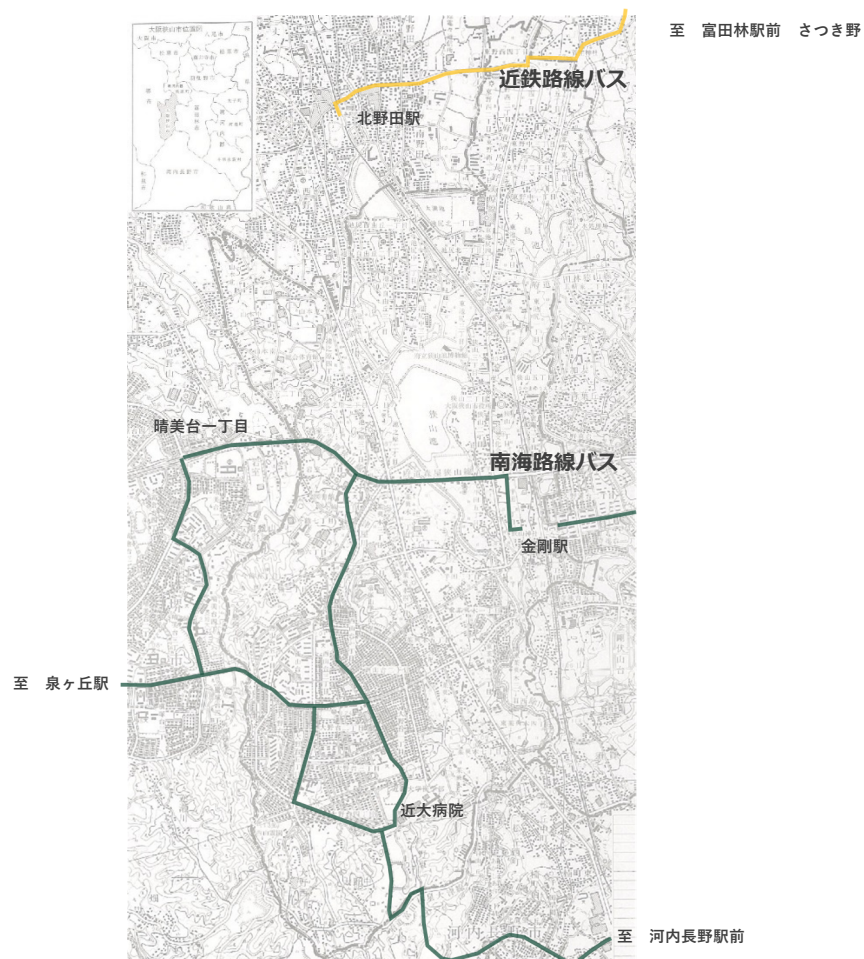


図 7-8 市循環バスルート別年間利用者数の推移

(4) 路線バス

- ・市内には、南海路線バスと近鉄路線バスの二つの民間バスが運行されており、南海路線バスは、泉ヶ丘駅、河内長野駅まで移動できるルートが、近鉄路線バスは富田林駅まで移動できるルートがあります。

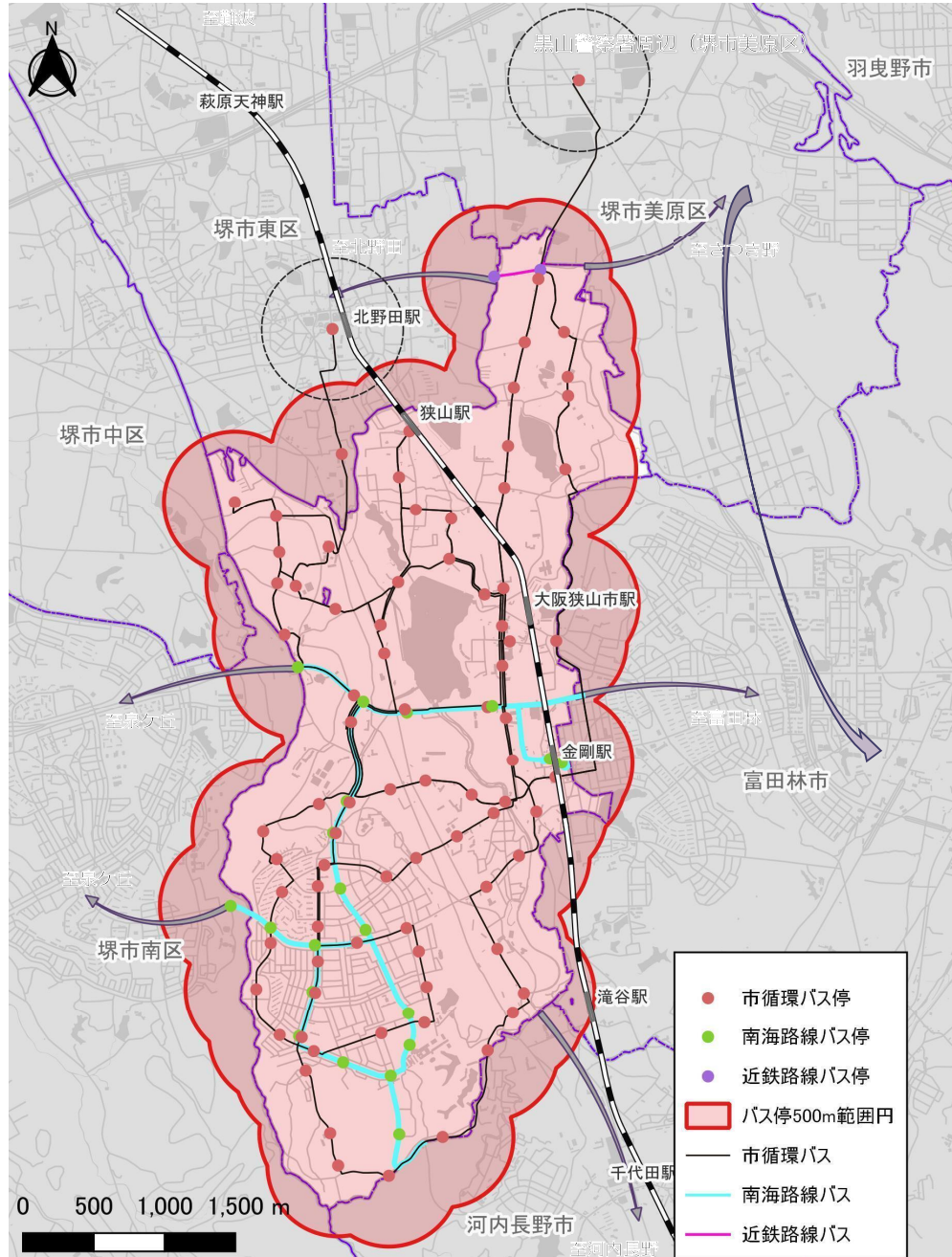


※令和 6 年（2024 年）4 月時点

図 7-9 南海路線バス・近鉄路線バス ルート図

(5) バス停徒歩圏

- ・バス停留所の徒歩圏 500mの範囲は、市域全域と重なることから、公共交通の人口カバー率は高いといえます。



※令和6年（2024年）4月時点

図 7-10 バス停留所徒歩圏 500m範囲図

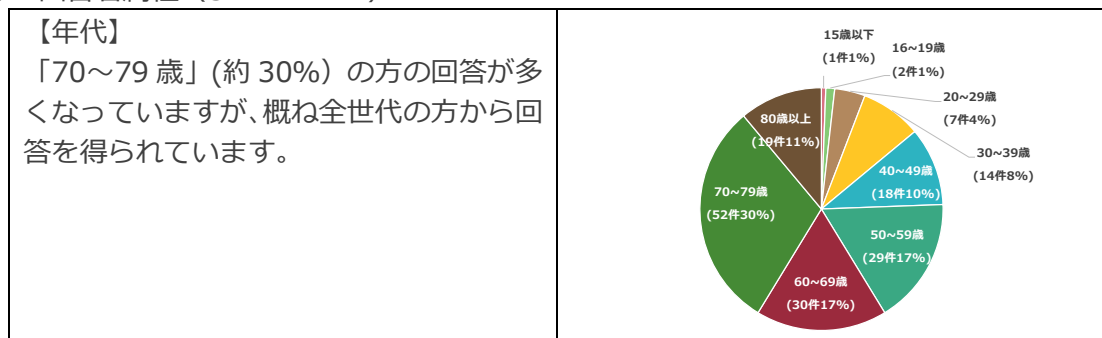
【出典】南海・近鉄路線バス：国土数値情報「バスルートデータ」令和4年度（2022年度）版更新

【注記】市循環バス西回り「北野田駅前」、北回り「美原区役所前」は、市域外がバス停 500m 範囲円となるため、点線で示しています。

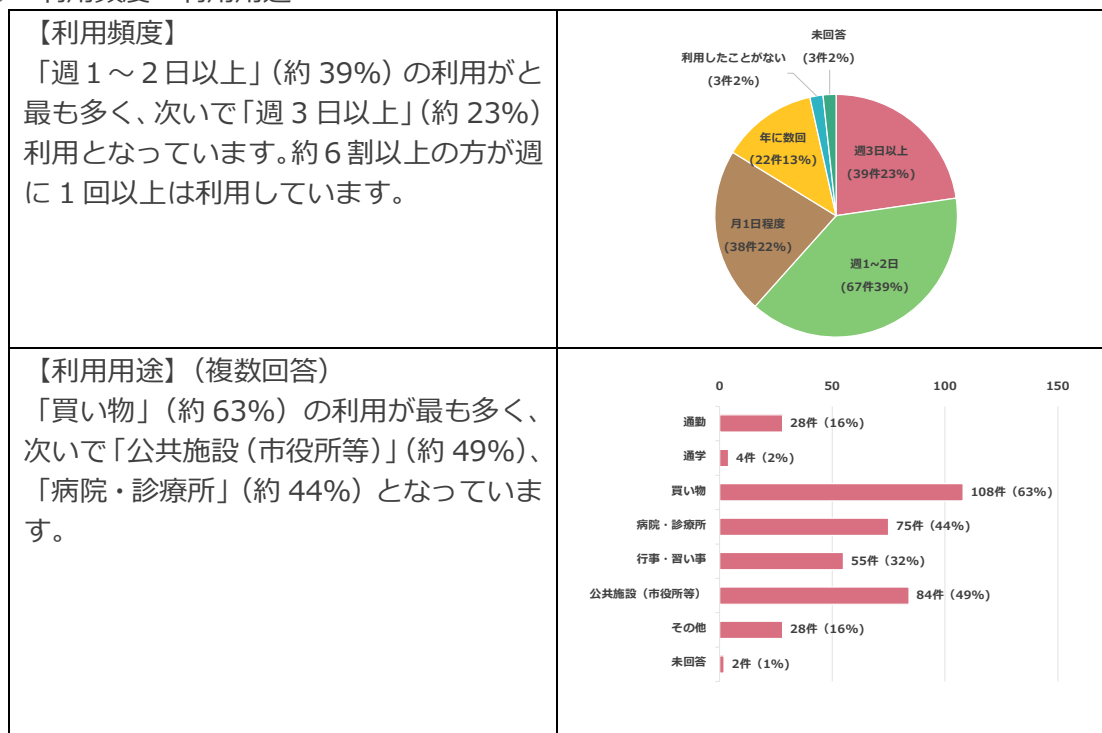
(6) 市循環バス利用者調査

- 令和6年（2024年）5月1日から5月31日に、市循環バス車内及び停留所にQRコードを掲載した、アンケート調査を実施し、172名から回答を得ることができました。

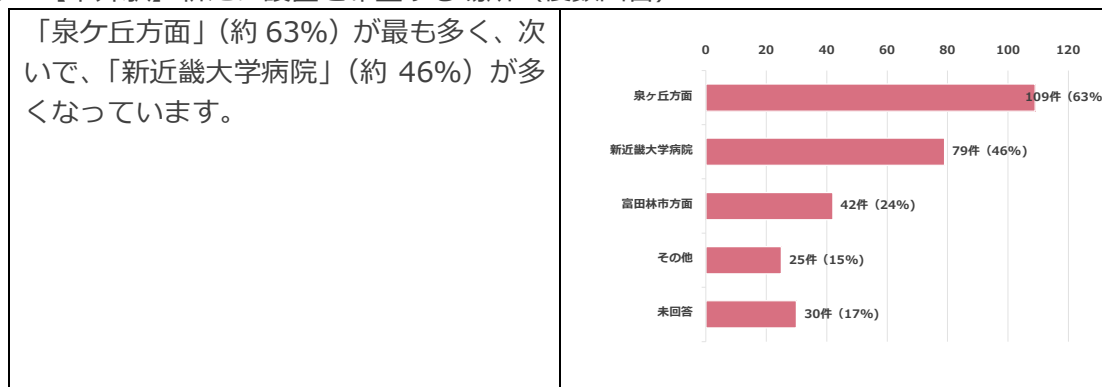
① 回答者属性（SA・N=172）



② 利用頻度・利用用途



③ 【市外駅】新たに設置を希望する場所（複数回答）

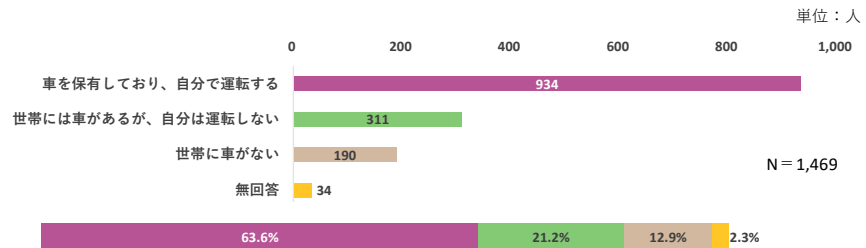


(7) 公共交通（バス）に関する意識調査

- ・ 今後の大阪狭山市の都市づくりの方向性を検討するにあたり、市民の生活行動やまちづくりに対する意識について意見を把握するため、令和 2 年（2020 年）8 月にアンケート調査を実施しました。

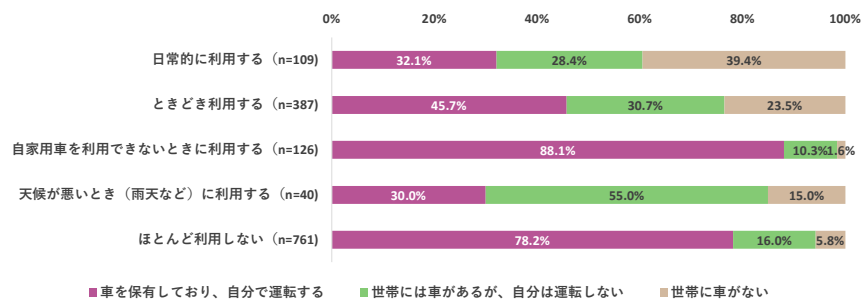
① 車の保有状況について

- ・ 回答者の 63.6%が「車を保有しており、自分で運転」する方で、自分で運転しない方や車がないという方は全体の約 34%でした。



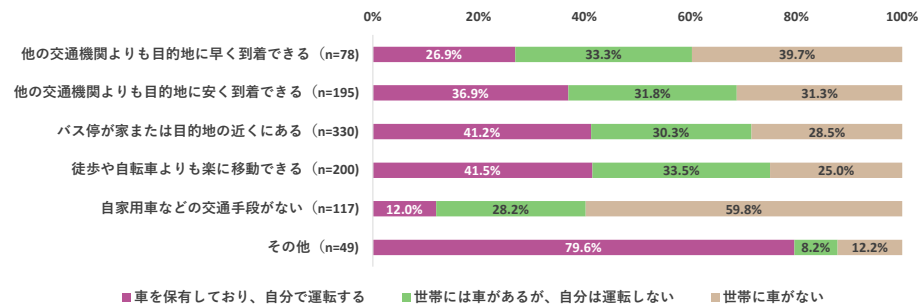
② 市内で運行しているバス利用について

- ・ 「車を保有しており、自分で運転する」人も、一定数がバスを利用しています。一方「ほとんど利用しない」と回答した 761 人のうち 78.2%が「車を保有しており、自分で運転する」と回答しています。



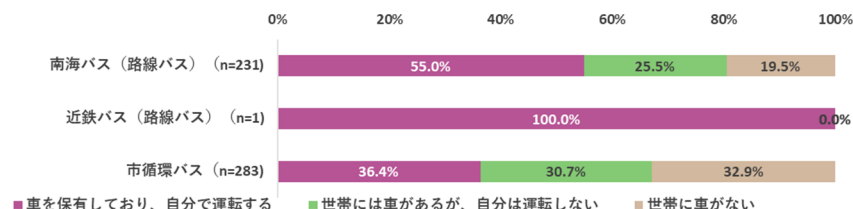
③ バス利用する理由（複数回答）

- ・ バスを利用する理由は、車の保有や運転する・しないに関わらず、大きな差は見られませんでした。
- ・ 「バス停が家または目的地の近くにある」と回答した人が 330 人と最も多く、次いで「徒歩や自転車よりも楽に移動できる」と回答した人が 200 人でした。



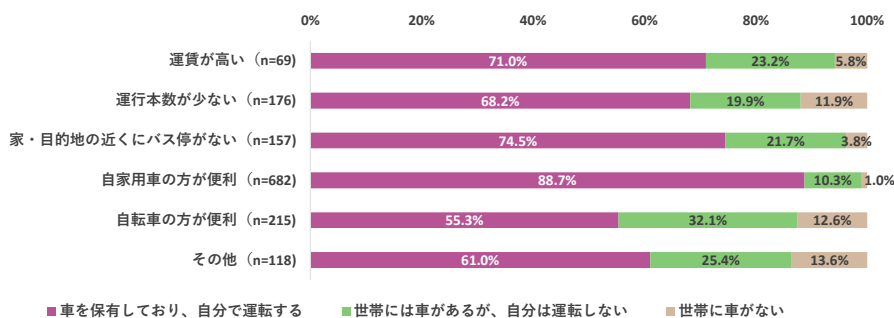
④ 主に利用するバスについて

- ・「市循環バス」を利用している人が 283 人と最も多く、次いで「南海バス(路線バス)」を利用している 231 人でした。
- ・「南海バス(路線バス)」を利用している人の 55%が「車を保有しており、自分で運転する」と回答しています。



⑤ 普段はあまりバスを利用しない理由について（複数回答）

- ・バスをあまり利用しない理由の中で最も回答が多い理由は「自家用車の方が便利」と回答した人が 682 人、次いで、「自転車の方が便利」と回答した人が 215 人でした。
- ・「運行本数が少ない(176 人)」や「家・目的地の近くにバス停がない(157 人)」ことが理由でバスを利用しないと回答した人もいました。



⑥ バスを利用する可能性について（複数回答）

- ・バスを利用しない人に、バスを利用する可能性について聞いたところ「自動車やバイクに乗れなくなったら利用する」が 581 人、次いで「徒歩での移動が難しくなれば利用する」が 245 人でした。

